

2011年5月20日

ロシア関連メモ 069

国際公共政策研究センター  
主任研究員 神野 雅人

## ロシア 2012 年問題関連(1):メドベージェフ大統領記者会見

### 1. 記者会見のフォーマット

メドベージェフ大統領は、5月18日、スokolovkoにおいて記者会見を行った。この記者会見には内外のジャーナリスト等 800人以上が招待され、大統領が出席者の質問に回答する方式によって行われた<sup>1</sup>。会見はテレビ、ラジオ、ウェブ等で英、独、仏、日の4ヶ国語の同時通訳つきで生中継され、時間も2時間15分に及ぶという大掛かりなものであった。

メドベージェフ大統領がこのような形式の会見を行うのは就任後初めてのことで、会見前にはこの機会に来年の大統領選挙への出馬を表明するのではないかとの期待が高まっていた。アレクセイ・チェスナコフ政治動向センター所長も同センターウェブサイト上の週報で、「最大の政治イベントとなる可能性がある」と注目していた。

### 2. 大統領選出馬関連コメント

しかしながら、大統領戦に関する質問が出たにもかかわらず、結局出馬表明は行われず、周囲の期待裏切られる結果となった。以下、出馬に関する質問への大統領の回答。

「皆さんが本日の会見で興味深い発表があることを期待しているのは分かっている。だが、政治はショーではなく非常に複雑な仕事であり、一定のルールと技術的配慮が必要である。

我々の任務は、国家を変革し前進するという目標を達成することであり、国民をより豊かで幸福にする社会プログラムを実現することである。(中略)何よりも必要なことは結果を出すことで、期待されるような決定(注:大統領選に出馬するかどうかの決定。注は筆者)は、適切な時に全ての条件が整った時になされるべきである。さもなければ政治的に逆効果となる恐れがある。

---

<sup>1</sup> 会見会場がメドベージェフ大統領主導の近代化プロジェクト「スokolovko・イノベーションセンター」の地が選ばれたことは大統領の近代化を推進するイメージを印象付けることを狙うもので、また、Q&A方式が採用されたことは、プーチン首相が行っている毎年恒例の国民との対話番組に対抗するものであるとの指摘もある。

この種の記者会見はそのような発表を行う場としては適切ではなく、別の形式により公表されるべきである。

決定には合理的なシナリオが必要である。もちろん沈黙が永久に続くわけではない。選挙のプロセスにはルールがあり、私もそれに従う。決定したら間違いなく発表する。まもなく発表があると期待していいだろう。」

また、別の質問者からの、メドベージェフ大統領とプーチン首相が大統領選挙を戦う可能性があるのか、その場合統一ロシア党首であるプーチン氏に対し、メドベージェフ氏がどの政党を支持基盤とするのかとの質問に対しては次のような回答があった。

「政治的決定には明確な計算が必要である。政治は子供の遊びではない。我々の手に多くの国民の運命がかかっており、個人的野心も満たすために策を弄することは許されない。大統領選挙に関する決定はそのことを考慮しなくてはならない。

私とプーチン氏の関係はタンデムと呼ばれるようになってからだけのものではなく、20年以上渡るものであり、我々は互いを深く理解している。我々はロシアの発展に関わる重要課題については非常に近いアプローチを採っており、それゆえに一緒に仕事をすることができる。我々の政治的関係が解消され共に仕事ができなくなったらロシアの政治環境は大きく変わる。将来に関する決定（大統領選に出馬するかどうかの決定：註は筆者）を行う際はそのことをよく考えなくてはならない（中略）誰が大統領選となり、将来何をするかは、我々の国家、国民に対する義務を第一に考えなくてはならない。

自分が大統領選挙に出馬する場合には一定の政治勢力の支持を求める。それ以外にあり得ない。先ず過去に自分を支持した政党の支援を求めるだろう。ただし、新党結成も可能であり、それには何ら問題はない。」

### 3. 政治的影響

上述の通り、大統領が従来ない大規模な形式の会見を行うこと自体が重要な発表があることを期待させるものであり、特にプーチン首相が5月初めから「全ロシア人民戦線」の結成による自らの支持基盤固めに公然と動き始めたことから、今回の会見がそれに対抗するものになると予想されていた。

しかし、そのような期待に反して出馬表明がなかったことは、特にメドベージェフ氏を支持

するリベラル派に大きな失望をもたらした模様である。

会見では事前に質問が寄せられ、どの質問に回答するかは大統領自身が決めたとされているが、質問の中には「モスクワの駐車場問題」、「車検廃止」、「園芸業の振興」、「退役軍人の生活改善」等、敢えて会見の場で取り上げる必要性が疑問視されるような瑣末なものも含まれていた。そのため、今回の会見について「何も言うことがないのなら、なぜこのような場を設定したのか」「このパフォーマンスは政治的自殺行為に等しい」と酷評する事後のコメントも散見されている。

さらに出馬表明を行わなかったことで、「メドベージェフ氏が独立した政治家でなく、プーチンへの信頼性の維持するための存在であることがはっきりした」という厳しいコメントも見られる。

メドベージェフ大統領とプーチン首相は、2人のうちどちらが大統領選に出馬するかは、適切な時期までに話し合っただけで決定するとしているが、今回の会見により、決定権はプーチン氏の側に移行しつつあると見られる。

今回発表がなかったことで、決定の時期についてはさらに不透明感が高まったが、12月の議会選挙の結果が出た後までずれ込むとの見方も出ている。

以上